

## 俳人 夏井いつき講演会

# 「俳句を創る 人を育てる」

12月15日(土)文化会館ホールにおいて、第6回文化・芸術体験事業として、テレビなど各方面で活躍している俳人夏井いつき氏による講演会が行われました。

当町出身の故金子兜太氏との思い出話やテレビ番組撮影の裏話、俳句の普及に対する情熱など熱のこもった講演でした。

来場者は、一流のかたの講演が身近で聴けて良かった、楽しかったと興奮冷めやらぬ様子でした。



## 佳作

しんしんと私に戻れそうな霧

金子 和美

(評)「私に戻れそうな霧」は故郷の霧でしょうか。しんと冷たい霧です。

菊香る石垣高き一揆の地

根岸 茉莉

(評)「石垣高き」に誇りが滲みます。菊も格調高く香ります。

朝顔の種老犬の誕生日

宮城 敏子

(評)日常のささやかさが取り合わせの接点。今年の実りも老犬と共に。

干柿のすだれの奥に蚕部屋

宮城 和歌夫

(評)仄暗い「蚕部屋」を思います。干柿の影が映像に陰影を生みます。

案内さる刈田は臨時駐車場

引間 千鶴

(評)ここに停めると誘導されるのは広々とした「刈田」。生活実感の句。

秋日濃し古本市にのらくろ買ふ

勅使河原敦

(評)濃い「秋日」に黄ばんだ「のらくろ」の表紙まで見えてきます。

巡礼や座席に残す牛膝

寺内 紀代

(評)上五で人物と状況まで分かるのが上手い。歩いてきた道を思います。

大いなる与太のふる里木の実降る

中川 春子

(評)金子兜太氏への追悼句。大らかな「木の実降る」ふる里です。

小春日の股綻びて男縫い

山中 資治

(評)中七下五のなりふり構わない愉快さ!小春日の暖かさが似合います。

団栗をぶつぶつ踏みて反抗期

島田 禎二

(評)愚痴も団栗も「ぶつぶつ」と踏んでいきます。家族史としての一旬。

※順不同敬称略にて掲載しております。